

# 心に響く人生の達人セミナー講演会

## 「守・破・離」

諫早市立諫早図書館長 平田徳男先生

はじめに

本日は、伝統ある島原高校の青き楓たちと保護者の皆様に話す機会を頂きまして、大変幸せにありがたく思っています。先ほどのご紹介にあったように辰田校長先生とは長崎東高校で2年間一緒でした。先生の情熱にいつも感心していました。その先生が、青き楓たちにいつも力強い言葉で語りかけているであろうと思いながら話す内容を考えました。今回は、「守・破・離」について話しをしたいと思います。さてはじめに「この世に一人しかいない私」という話をします。命というのがどれくらいの確率で生まれたのかという話です。

### I. この世に一人しかいない私

#### 1. 3億分の1

卵子のもとになる細胞は10万あり、思春期に至るまでに厳選され、3万くらいになる。その後、排出された卵子が卵管を通過している間のみ、精子と卵子の結合のチャンスがある。しかも卵子の寿命は1日以内。精子は、0.03mm頭部に重要な遺伝子を満載している。健康な男性の場合、1回に約3ccの精液が女性の体内に送り込まれる。その中には、約3億の精子が含まれる。

まず精子は、女性の体内に入っただけで、試練に直面する。というのは、ここは酸性を帯びているので、酸に弱い精子は一斉に、その奥のアルカリ性の子宮頸管へと必死に泳いでいく。その間に、奇形や未熟なもの、力の弱いものはほとんど脱落する。ようやく子宮頸管に辿りついたものも、ここから、子宮腔内を通り抜けて卵管へと進んでいかなければならない。ところが繊毛のそよぎは、進行方向と反対の向きのため、精子は流れに逆らって泳いでいかなければならず、第二の関門で多くの精子はふるい落とされ、屈強のものだけ残る。

こうして困難に打ち克って卵管にたどりついてみても、卵子がタイミングよくそこにいなければ、長い旅は徒労に終わる。もっとも精子の寿命は約3日あるので、待っている間にうまく卵子が排出されてくれば出会いは起こり得る。こうして長い道のりを、難関を越えながらやってきた精子が首尾よく卵子に出会えた後、第三の最後の競争が展開される。卵子に出会った精子は、一斉に卵子の表面に群がり、中に入ろうとするが、卵子は表面に顆粒膜という層をはりめぐらし、容易に精子の侵入をゆるさない。そこで精子は、頭部からヒアルロンダーゼという酵素を分泌して、なんとかこの顆粒膜を溶かして卵子の内部に入りこもうとアタックし始める。その時、おびただしい精子に囲まれた卵子はルーレットのように回転を始める。回転する1個の卵子とそこに群がるおびただしい数の精子。そして遂にある一点で顆粒膜が溶け、一番そばの精子がただ1



個、そこから卵子の中に入る。とその瞬間に、卵子の表面は受精膜という新しい膜に変わり、他の一切の精子の進入をはばむ。

このような試練の果てに、3億の中からただ1個の精子が選ばれる。3億の中から選ばれた1個の精子が、10万個の細胞から選ばれた1個の卵子に出会うという低い確率の中で恵まれた命をどう生かすかを考えないといけない。

## 2. 自分を生かす

山本有三の路傍の石という小説で、愛川が先生に怒られる場面、

「・・・愛川、おまえは自分の名まえを考えたことがあるか。」

「吾一というのはね、われはひとりなり、われはこの世ひとりしかない、という意味だ。世界に、なん億の人間がいるか知れないが、おまえというものは、いいかい、愛川。愛川吾一というものは、この広い世界に、たったひとりしかないのだ。そのたったひとりしかないものが、汽車のやってくる鉄橋にぶらさがると、そんなむちゃなことをするってないじゃないか。」

「・・・人生は死ぬことじゃない。生きることだ。これからのものは、何よりも生きなくてはいけない。自分自身を生かさなくてはいけない。たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、ほんとうに輝かしたさなかつたら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。」

人生は1回しかない。命はひとつしかない。たったひとつしかない命をどのように生かすかを考えなければならない。私がこの世にいるということは、私しかできない使命があるはずだと思わなければならない。命を輝かすためには夢を持つことが必要になってくる。

## 3. 夢を持つこと

夢を持つこと。実現しようと思ふこと。始めること。続けること。続けたらあきらめぬこと。今挙げた言葉の中で、難しいことはなんだと思いますか。私自身は、続けることが難しいと思います。「本物は続く、続けると本物になる」という私が好き言葉があります。私が定めた目標・進路がもし本物ならば続くはずだ。続けていくといつの間にか自分の使命に気づき、本物になっていく。易しい言葉だけど深い言葉です。続けないと本物にならないということも考えられます。続けるために、人とは違う自分を見出そうじゃないか。

「自分というものを見つけるのは確かに難しい。しかし、競争の世の中ですからね。他の人間より優れている分野が見つかれば、入っていけばいい。人とは違う自分を見出せ、ということですね。そこから自分の夢をつくって欲しい。あなたは、人になんか貴重なものを持っているに違いないのです。」と江崎玲於奈さんが言った言葉です。人の真似ではなく、自分にしかできないことがあるはずなのだ。それならチャレンジしようじゃないかとなるわけです。

## 4. チャレンジ

チャレンジとはどういうことだろうか。「チャレンジとは、独自の目標に対する挑戦であり、他人との競争ではない。他人との競争意識が過熱すると、そこに気をとられ目標そのものの達成にマイナスの力が加わる。そこに落とし穴がある。他人を意識し、自分との比較にあけくれ、嫉妬心が強まり、批判を気にする。つまり、人間が防御的になる。守りに入るということ。」



そして、「人間の思考能力には限界がある。個々の人の思考エネルギーの総和は、誰も似たり寄ったりのものだろう。その貴重なエネルギーを防御に向ければ、その分だけ、自分の思考エネルギーは減る。攻撃は最大の防御という言葉は、思考エネルギーの経済学の立場から見ても真理をついている。」

チャレンジは、その目標を、自分自身の中に置くものである。目標達成に全力をあげていれば、他人との比較に注意を向ける余裕さえなくなるはずだ。すぐれたスポーツマンは、一度試合に臨むと、最終的な勝利さえ忘れて、いいプレーをすることに全力をあげる。結果的には、それが勝利につながるのである。つまり、良い仕事をしようというふうに熱中すれば結果はついてくると広中さんは言いたいのだと思います。さて、続けていくときに才能がなかったらどうなるのですかとなるわけです。こんな話があります。

## 5. 才能・素質

「何ですって、あなたは私のところへ来てから何枚絵をかきましたか、才能があるかないかなんてことは、あんたが死んでしまってから他人が言ってくれることですよ。」自分で才能があるかなんてわからない。才能があるかどうかは他人が決めるということです。

「厳しい練習を重ねることができるとも素質というなら、具志堅が一番だ、と言われたことがある。うれしかった。」練習を続けることも素質だということです。勇気を与えてくれる話です。受験勉強や学校生活にも当てはまる話だと思います。続けることは難しいことです。

二つの話から、継続する力、努力する力が素質の一つだということがわかります。まずは何かをやってみること。そして、続けることが大事。それでは、自分をどう作っていくのか。自分を作っていくのは、人ではなく自分自身なのです。そこで、型を叩き込むというのがあります。数学者の藤原正彦さんと歌舞伎役者の市川團十郎さんとの対談がある雑誌に掲載されていたので紹介します。

## II. 自分づくりー「自分は自分の主人公、世界でただ一人の、自分を作っていく責任者です」

### 1. 型

藤原ー国語には国語の、人間には人間の「型」があります。その型を、強制的で、画一的でもいいから叩き込まなくてはいけない。歌舞伎も同じではないでしょうか。

市川ーたしかに独創性や創造性より、まずは文句も言わず、張り倒しても型を叩き込むことが必要ですね。手の位置なんて、ひっぱたかないと覚えられない。理屈ではなくて、正しいものは美しいのです。それが人間の心を一番表現しています。数学の数式でも、真理に近づいている方が美しいのではないですか。

藤原ーそのとおりです。野球だってそうです。最近、大リーグで日本の投手がどんどん活躍していますよね。日本の投手はフォームが非常に美しい。アメリカの投手はぎこちない。かつては体力の差がありすぎたので勝てなかったけれど、体力がだんだん近づいてくると、フォームがきれいな方が勝ちます。美しいものが合理的で、美しいものが正しいというのは、数学でも物理でもまったく同じです。

ここでは何を言っているのかというと、基本的に身につけておかないといけないことは、型に入れてでも身につけておかないと基礎ができないということです。理屈なしで身につけないといけない基礎はたくさんあるわけです。基礎である土台なしで立派な建物は立たないわけです。基礎はとても大事なもののなのです。基礎とは体の基本、心の基本があります。挨拶の型なんかは典型です。動作や感謝の気持ちなど型にはめてやらないといけない。型に入れて叩き込んでやるこ

とは、すべての事象において大事なことです。型を形成していく高校生の段階ですべてのことを理解することは難しい。人生経験を積んでいくうちにわかることはたくさんあるわけですが、素直に型にはまることを考えてほしい。わけがわからなくてもやらないといけないことはたくさんある。叩き込んでやっていかなければならないわけです。

そこで、守・破・離という言葉を紹介します。守・破・離とは、剣道や茶道で、修業上の段階を示したもの。守は、師や流派の独自の教え、型、技を確実に身につける段階。破は、他の師や流派の教えについて考え、より良いもの、望んでいる方向へと発展する段階。離は、一つの流派から離れて、独自の新しいものを確立する段階。日本には、道のつくものがたくさんある。華道や書道、歌道などいろいろなものがあります。剣術と剣道の違うのです。道には技術的なもの以上に精神的なものが入っている。人生において、守・破・離を覚えておいてください。基礎を身につける段階である守の時期に、しっかりと基礎を固めておかないと発展もなければ独自のものもでてこない。今、君たちを鍛えている先生方は高校の時期に固めておかないといけないことを定め、確信をもって指導されているわけです。ですから、君たちは受け止めることが、未来の豊かさにつながっていくわけです。守がしっかりしてないと破離はない。それでは、守の段階における基礎について考えいきます。

## 2. 基礎を固める

高校時代に固めておきたい基礎ということで、人生80年を支える心と体と友人というものがあります。まず、心ですが肯定的人生観・知的好奇心・自己内対話（「もっとがんばれ」という自分と「のんびり行こうや」という自分の対話）・復元力が挙げられます。つまり、否定的な考えでなく、肯定的に考えることが大事だということ。努力しても成果がでないことはあります。そんなとき、肯定的人生観が必要になってくる。また、知的好奇心は持ち続けなければならない。なぜなら、知的好奇心の低下は老化を進めるといわれている。そして、自己内対話することができることは必要で、もう一人の自分自身と話すことで困難な道のりも乗り越えられるはずだ。復元力とは、落ち込んだときに立て直すことができる力です。

次に、「たくましい体が美しい志を支える」についてです。どんなに美しい大きな志があっても体がついていかないと何もできない。体を鍛えることが必要になってくるわけです。体を鍛えるというのは、自己管理ができるということです。自分自身を管理できるということが人生80年を支えることにつながるわけです。要するに、飲み過ぎたり食べ過ぎたりすることがないように管理できるかということです。

君たちに聞きたいことがあります。親友（前置きなしで本題に入れる友）はいますか。高校時代の友達というのは、年月が過ぎても前置きなしで話ができる。つまり高校時代の友達とは親友なのです。「かなり能力があるのにいつまでも上昇気流に乗れず奇妙に不遇である場合は例外なく親友がいないのを特色とする」「親友ができるための条件の第一は友達がいないければ淋しいと思う心の渇きであり、第二は誰かを喜ばせることを好む性向である」この2つは大事です。よき友三つありと徒然草の中にあります。一つには、物くるる友。二つには医師。三つには、知恵ある友。知識と知恵の違いはわかりますか。ものを学び知っているということは知識です。経験を通して応用できることは知恵です。年齢を重ねるといことは、知恵をどれだけ蓄えるかということなのです。

読書力ということで話をします。なぜ本を読むことが大事なのかということで、次のような話があります。読書力があるということは、食べるということになぞられて言えば、強い歯や顎を持っているということにあたる。硬い食物は、成長期に歯や顎を鍛える。そして鍛えられた歯と

顎でその後の人生を生き抜いていく。軟らかいファーストフードばかり食べていけば、歯や顎の発達は妨げられる。その後の栄養摂取にマイナスの影響を与える。これと同じことが読書についても起こっている。硬い内容の本は敬遠され、アニメやゲームといった、軟らかい、自力で消化することを求めない食べ物へと向かう傾向は加速している。読書をするための歯や顎が鍛えられないまま成人するということは、日本ではむしろ一般的だ。アニメは、硬い読書と比較すれば、スープにあたるだろう。マンガはスナック菓子だ。最近では、アニメにおいても、活字の多いものはあまり人気がなくなっている。絵を見ないと内容が分からないではなく、絵を想像しながら文章で内容を理解していくことがとても大事なのです。読書力をつけてほしいと思います。また、本を読むことで知識を増やすこと以上に、考える力をつけてほしいと思います。小論文を書くことがあると思います。小論文を読むと本を読んでいるか読んでいないかがすぐわかる。書いてある言葉使いや文の構成が全然違います。本を読むことが役に立つのは間違いないことです。

次に、語学力ですが、英語は世界共通語。英語が上達するには日本語の基礎が不可欠です。国語や数学の問題に取り組む際にもとても重要で、言葉の力は非常に大切なのです。

### 3. 国際社会に通じる人間の6条件

- ・国際社会に通じる言葉を身につける。
- ・言葉の背後にある生きた文化を学ぶ。
- ・対話する時に、会話の内容をしっかり持つ。
- ・本音、建前ばかりでなく多様性を認めながらも自己主張ができる。
- ・画一的ではなく、想像力豊かに、創造的に振る舞う。
- ・狭い「村」という枠ではなく、グローバル・ビジョンを持つ。

以上のことを明治大学の先生が挙げています。

### III. 一生勉強—三上磨錬

まず、「書上磨錬—本から学ぶ—読書は夜道の案内者」がある。次に「人上磨錬—出会った人から学ぶ—人間は人間を浴びて人間になる」がある。人間は多くの交わりから人間ができる。それから「事上磨錬—出来事（経験）から学ぶ—人間が賢くなるのは、経験によるのではなく、経験に対応する能力に応じてである（経験をどう生かすかはその人の能力次第）」がある。同じ経験をしてそこから学ぶことができるものと学ぶことができないものにわかれるのは、その経験からその後どのように対応したか違うからである。

### でんでん虫の悲しみ

一匹のでんでん虫がありました。ある日、そのでんでん虫は大変なことに気がつきました。私は今までうっかりしていたけれど、私の背中の殻の中には悲しみがいっぱいつまっているではないか。その悲しみはどうしたらよいのでしょうか。でんでん虫は友達のでんでん虫のところに行き言いました。私はもう生きていられません。私はなんて不幸せなのでしょう。私の背中の殻の中には悲しみがいっぱいつまっているのです。すると、友達のでんでん虫は言いました。あなたばかりではありません。私の背中の殻の中も悲しみがいっぱいです。それじゃ仕方ないと思いはじめのでんでん虫は別の友達のでんでん虫のところへ行きました。すると、友達のでんでん虫は言いました。あなたばかりではありません。私の背中の殻の中も悲しみがいっぱいです。そこで、はじめのでんでん虫は別の友達のところへ行きました。こうして友達を順々に訪ねていきましたが、どの友達も同じことを言うのでありました。とうとうはじめのでんでん虫は気がつきました。悲しみは誰でももっているのだ。私ばかりではないのだ。私は私の悲しみをこらえていかなけれ

ばならない。そして、このでんでん虫はもう嘆くのをやめたのであります。

終わりに

「多く受けた人は多く返す」

悲しみは誰にでもある。悲しみを持ちながら生きている。人間である以上、みんなが苦しみや悲しみを持ちながら、少しでも自分自身を成長させられるように努力していかなければならないと思います。以上で終わります。

今日は次の世代を担う若者がいることを確信しました。ありがとうございました。